

## 令和元年度 第1回さいたま市文化芸術都市創造審議会

- 1 日時 令和元年7月19日(金) 14時50分～17時
- 2 会場 議会棟2階 第6委員会室
- 3 出席者 (敬称略、五十音順)
  - (1) 委員(8人)  
飯塚真澄、井口壽乃、池田妙子、加藤隆男、  
鶴見清一、土井一朗、森隆一郎、柳沢幸一
  - (2) 事務局(7人)  
スポーツ文化局 蓬田局長、大西理事  
文化振興課 野口課長、茂庭課長補佐  
小野瀬係長、飯島主任、田島主事
  - (3) 欠席者(2人)  
奥本千絵、桐淵博
- 4 公開・非公開の別 公開
- 5 傍聴人の数 0人
- 6 内容
  - (1) 開会
  - (2) スポーツ文化局長挨拶
  - (3) 委員、事務局等紹介
  - (4) 正副会長選出
  - (5) 諮問事項について
  - (6) 会議の公開について
  - (7) 議題
    - ①さいたま市文化芸術都市創造計画等の概要
    - ②本市を取り巻く文化芸術の現況と課題
    - ③審議会の位置づけ及び計画策定の進め方
    - ④次期計画の検討事項
    - ⑤アンケート及び各種調査の進め方
  - (8) その他
  - (9) 閉会

## 会 議 記 録

### <議題①さいたま市文化芸術都市創造計画等の概要>

事務局 検討資料「1-1 さいたま市文化芸術都市創造計画 概要版」及び「1-2 さいたま市文化芸術都市創造計画平成30年度施策集」を説明

会長 ありがとうございます。事務局の説明についての御意見、御質問等あればご発言ください。

私から質問なのですが、資料1-2の5ページ、「施策7 文化芸術活動の場となる施設の充実」の「7-2 文化芸術都市創造に向けた拠点機能の構築と施設連携」とありますが、拠点となる場所とは具体的にどこを指しているのでしょうか。

事務局 現時点の計画におきましては、さいたま市文化センターを拠点施設として位置付けて施策の中に取り込んでいる状況になります。

事務局 補足をさせていただきます。現行の計画上、拠点施設はさいたま市文化センターとしておりますが、さいたま市としてはさらに拠点を増やしていこうという考えがあります。それと、しあわせ倍増プランの中におきましても拠点機能の構築として、単語としては出てきていませんが、さいたま市の文化施設として不足している機能、一例を挙げますと美術館機能などを今後検討していくべきであるという議論になっているところです。

会長 ありがとうございます。この資料でもう1箇所わからない点として、6ページのまとめの下から8行目にある「アート・イン・スクール」とは何でしょうか。

事務局 学校の教育現場においてアートを取り入れていこうという事業です。現在行われているのは、たとえばプライマリーコンサートと申しまして、小中学校でプロのオーケストラの弦楽などの出前コンサートを行い、子どもたちに本物の音楽に触れてもらおうという内容です。

会長 音楽だけですか。

事務局 美術も行っています。たとえば芸術家の方が段ボールを使ったアートを制作し、その過程を子どもたちが一緒に体験するものもあります。子どもたちが小さな作品をアーティストと一緒に作り、創作活動の喜びを体験してみようという事業も行っています。

- 会長 さいたま市の全部の小中学校で行っているのですか。
- 事務局 現在はそこまで至っておりません。プライマリーコンサートについては年間 15 校の小中学校や特別支援学校で実施しています。それからアーティストを派遣する事業もまだ始まったばかりで、目標は 15 校としていたかと思います。教育委員会で所管している事業のため直近の実施件数を持ち合わせていないのですが、全校での実施には至っていないということです。
- 会長 わかりました。ありがとうございます。委員の皆様、いかがでしょうか。
- 副会長 施策集のまとめのところではいろいろな数値的なことが多かったのですが、数と質とは別だと思うのですが、質的なことに関してはどんなふうに把握していらっしゃるでしょうか。
- 事務局 現在の施策集では、施策の体系の中でそれぞれの施策に関連する事業がどれだけあるか、この計画が始まった平成 26 年度から事業数の把握が基本的には中心になっています。質をどう評価しているかという点ですが、この計画において事業のクオリティを判断するような成果指標として、先ほど申し上げた最終的な成果指標は「さいたま市を文化的なまち、芸術のまちとイメージする市民の割合」と設定していますが、そのほかの目標を現在は持ち合わせておりません。統一的なクオリティの評価は無く、個別に中身を見ているという状況です。
- 会長 クオリティの問題については今後の課題ということになりますね。
- 委員 まとめところで、新規事業が延べ 12 事業で少ないというのがありました。これは以前から行われたものが全部続いている上での新たな 12 事業なのか。ようするにプラスマイナスではどうなっているのか、おわかりになりますでしょうか。
- 事務局 12 事業は、これまで行われていない新たな事業です。施策集の最後のページに事業数の推移を整理しております。平成 30 年度については、平成 29 年度と比較した事業数の増減と、その事業名を記載しております。事業数全体としては、平成 30 年度は前年度よりも 5 件少なくなっています。
- 会長 この件についてはよろしいですか。
- 委員 はい。

会長 数で評価すると、非常に客観的に出てわかりやすいですから、どうしても数になってしまうのですが、先ほどのクオリティの問題や実際に行ったことに対する評価の問題、どういうふうに計るかは議論しなければいけないと思います。

その他はよろしいでしょうか。資料が大変数多くありますので、先に進めて、もしもまた関連することが出たら、そこで御意見をいただくということでもよろしいでしょうか。それでは次の議題に進みたいと思います。

## <議題②本市を取り巻く文化芸術の現況と課題>

事務局 検討資料「2-1 本市を取り巻く文化芸術の現況と課題」を説明

会長 現状と課題について、まさに課題が浮上しているという感じがします。御質問、御意見いかがでしょうか。

委員 課題1のパーセンテージですが、これは市民調査か何かをやられたのでしょうか、さいたま市内のいろいろな施設で行われているものを見て言っているのだろうかと思います。というのは、さいたま市には県の施設もあるわけです。私のいた彩の国さいたま芸術劇場は県の施設ですが、一般の方は県の施設か市の施設かなどの区分けは重要視してなくて、さいたま市内にある施設と思っています。または東京の近くにある施設と思っているかもしれません。そういうレベルで思っているとすると、個人的な立場ですが彩の国さいたま芸術劇場がもっとすごいものだというイメージがあれば、さいたま市の芸術都市としてのイメージにも貢献しているだろうと思います。そういう立場からしますと、都市のイメージを計るのに、市民がどういうふうに見ているのか疑問に思いました。

先ほどの資料1-1の説明では拠点という話もありましたが、行政の区分けの中での拠点となったら、というのがあります。さいたま市内にある拠点と考えれば、どこの運営だろうが、さいたま市民のために貢献する文化機能として活かしていく、そのための何らかの連携をしてはどうかと思います。県営を市営にしろとか言うのは非常に難しい話ですけれども、県と市の財団同士では何年前からいろいろな連携を日常的に取り組んでいて、職員の資質向上の研修をやったりしています。話が大きく、先に行き過ぎてしまっているかもしれないですが、そういうことも含めて、全体イメージの打ち出しの中での文化芸術都市という考え方ととらえれば、もっとさいたま市は上に出てくるのではないかと思います。

会長 同様の感想を私も持っていて、整理していきたいと思いません。拠点形成というのは大変重要な問題であるし、さいたま市と埼玉県との連携の問題もあるかと思えます。イメージのパーセンテージですが、目標にはほど遠く下がっています。これはどういうアンケートをとられているのでしょうか。

事務局 対象となるのは市民の方と市内在勤者で、毎年行っているものです。そのうちの質問の一つとして「さいたま市にどのようなイメージを持っていますか」と毎回お聞きしています。「自然の豊かなまち」「高齢者が暮らしやすいまち」「交通の利便性が高いまち」「スポーツの盛んなまち」など全部で 21 個の選択肢があり、その中の一つが「文化的なまち・芸術のまち」という選択肢になっています。回答者は選択肢の中からいくつでも思うものを選んでよいとなっています。従いまして、文化・芸術に絞って「さいたま市は文化的なまち、芸術的なまちと思えますか」と質問しているものではありません。

会長 アンケートの問いの立て方によってもこの数値は変わると思えます。浦和の駅を降りて、まず浦和レッズの大きな広告があるとサッカーのまちというイメージが強いですよね。もしも駅前にパブリックアートやモニュメント、アート作品が見えたら、ひょっとしたら芸術のまちという印象があるかもしれません。たぶん地理的な問題も含めて、さいたま市は東京のベッドタウンであり、秩父や川越といった自然の豊かなまちや、歴史や文化のある観光のまちとして売り出すものとは違って、浦和や大宮などの 4 つの都市が合併してできたさいたま市というのはどうしても交通の便のよい、通過していくまちであって、作られていく都市です。そうしたものをふまえた上で、県と市のありようや、連携の問題は今後もっと詰めて考えていかなければいけないと思えます。委員に非常に賛同する意見です。これに関連して経験のある方、御意見いかがですか。

委員 意識調査のやり方が非常に難しいと思えます。私は 68 年間住んでいますが、やっぱり浦和や大宮はベッドタウンで、歴史と伝統はあるけれど、文化のイメージが 25%に上がるというのは相当難しいことだと思います。だからこの目標がなぜ 25%なのかということもあります。訊き方一つで答えはいくらでも変わるし、15%が 25%になると言っても、同じ人にずっと聞き続けるのではないと思えますので、そういう難しさがあると思えます。

それから、市と県の関係については、できることから連携していく。使う側の立場としては埼玉会館や彩の国さいたま芸術劇場、

文化センターだって、さいたま市内にあるのですから、料金や近さというレベルでしか利用者は考えていないと思います。行政が全く違うので、その難しさがやっぱりあると思います。

副会長

事前に少しだけこの数字の根拠などを伺っていたのですが、印象として 25%というのは4人に1人ですから、例えば親2人子2人というような家庭では家族のうち一人が文化的なまちだと思っていることになります。今どきの3人家族だったら2家族に1人が思っているというイメージで、これは相当高い割合だと思います。数値目標の呪縛というか、何かを向上させなくてはならない時に、目標を低く設定することはない訳です。5年で10%上げるということは1年あたり2%上げていかなければいけないですよ。平成28年度はさいたまトリエンナーレがあったかと思いますが、あれだけの規模をやって2%アップです。毎年さいたまトリエンナーレみたいなことをやり続けると25%に行くかもしれない、ということですので、25%に関してロジカルに考えてもしょうがない、ただの数字遊びになってくる気がします。

もう一つ、今調査ではダイレクトに質問をしているのですが、文化度の高さとは何なのかというところを今一度考えてみる必要があると思います。たとえば、先日私が海外旅行で訪れた街では、ゴミが平気で道路に捨てられる光景を目の当たりにしました。誰が回収するのかわかりませんが、さすがに日本の都市だとそういうことは起こらない。これはたぶん文化度が高いからで、民度と言い換えてもよいかもしれません。たとえばそういう間接的な指標から、文化度の高さを換算していくということもできるのではないかと思います。駅で車椅子の方や視覚障がいの方がいる時に、どれくらいの方が手伝うか、ということも文化度なのではないかと思います。総合的にもう少し多角的な調査や集計の仕方をしてみるだけでも随分違うのではと思いました。

会長

非常に建設的な意見が出ました。文化度の高さ、文化的なまち、文化とは何か、ということですね。

事務局

そういったお知恵をいただきたいと思っています。現在の計画の成果指標は「4人に1人がそう思ってもらいたいよね」という理由で目標数値を設定しました。成果指標について複数検討いただきましたが、結果として選ばれたのはこの一つだけでした。先ほど御指摘いただいたとおり、アンケートの採り方によっては、ぜんぜん違う数字になってきます。今回の市民意識調査というのは無作為抽出で回答を出してくださいというものですから、比較的年齢の高い方

が回答してきます。そうすると答えも傾向が同じで、「さいたま市」が行っている施策や事業において「今後特に力を入れて欲しいもの」を訊くと「高齢者福祉の充実」がダントツ1位となります。委員がおっしゃられたように各文化施設でアンケートを採ると、ぜんぜん違う数字になってくるのではないかという気がしますので、そういったところも考えなくてはいけないと思います。それと、副会長がおっしゃられた何を持って計るのか、点数だけではなくて文化度、また事業に対する評価はどうするのか、そういった御意見をこれからいただき、新しい計画に足していきたいと考えています。

委員

市民の日々の生活の中で具体的に上げていきたいということだと思います。市と県の連携について、さいたま市というのは政令市ですから一般の市と県の関係とは少し違い、市だけでできることが多いとか、詳しく教えていただきたいのですが、いかがでしょうか。

事務局

市と県の関係ですが、指定都市になってからは一口に言ってしまうとそれぞれ独立してお互い干渉しないというふうになった時期がありました。県の補助金もさいたま市を対象としないで、さいたま市はさいたま市の中でやってくださいという方向になっていました。ただ、文化の面におきましては、委員もおっしゃられたとおり連携を進めています。我々も県の文化振興課と交流を進めていますし、各劇場間でも職員研修を行っているという例もございました。さいたま国際芸術祭 2020 を予定していますが、埼玉県とも連携しようということで話をしています。それぞれ組織が異なり予算も違うので、必ずしも同じ方向になるとは限りませんが、連絡は密にしていくつもりです。

委員

25%という数字はもちろん将来的には必要なのだろうと思いますが、どこの施設を充実させるのかということのも当然必要なのですが、文化芸術を発展させるにはもっと違う面もあると思います。私は音楽家で、童謡を教えています。6年前に童謡の団体を作ったのですが、現在400人の会員がいます。これはすごいことなのです。高齢になり無くなっていく団体が非常に多いのですが、私のところはおかげさまで増えてきています。手前味噌になりますが、これはやり方だと思います。減っているところは発声から始まって、綺麗な声で歌を教える団体が多い。私が教えているのは、たとえば「いぬのおまわりさん」を教える時に、この歌が歌われた昭和30年代の時代背景や、今の状況を解説しています。そうすると時代が変わってきたことを感じるができるのです。昔の歌を懐かしがって歌うだけではつまらなくなって来なくなります。それが文化かと言

われたら困るのですけれども、私はそれも一種の文化だと思っています。何が言いたいかと言いますと、もちろん会場も必要ですし、そういう機会を提供するのも必要なのですが、そこで何をやるのかということをもっと問われていいのだと思います。行事をやるというのではなく、その内容です。それを統計にとるとというのは難しいのかもしれませんが、さいたまらしさを出してやっていけたらよいと痛切に感じています。

会長            今のお話を私の解釈から言うと、現在行われているさいたま市文化芸術都市創造基金を持って、市民の活動を支援するということでよろしいでしょうか。

委員            基金ももちろんですが、何をやるかが大事だと言いたいのです。

会長            ただ、やろうとしている人たちの内容を、行政側がこういうのをやりなさいとか、意見するのは間違っていると思います。

委員            もちろん言えませんが、私はそういうことをもっと大事にしているような市でありたいと思っています。それが豊かな文化につながると思います。

会長            後半に出てくる次期計画のところ、関連してお話をうかがえればと思います。

資料 2-1、3 ページの関連施策等の現状のところを少し整理しますと、

- 市民参加型の特色のある国際芸術祭の開催：もう 2 回目で、今まさに動いています。
- 基金を活用した市民文化活動の支援の強化：継続していくということです。
- 文化芸術の創造拠点の設置：これは少し弱いかなと思います。あとで話します。
- アート・イン・スクール：今実施しています。
- 岩槻人形博物館の整備等による人形文化の振興：もうオープンします。
- 未来に向けた盆栽文化の継続・発展：国際イベントがありました。

そうすると、文化芸術の創造拠点の設置というのが、非常に弱いように思います。東京のベッドタウンさいたま市というのであれば、近隣の千葉市、横浜市とよく比較されると思いますが、横浜市も千葉市も市立美術館があります。コレクションがあつて、全国の美術館協議会の展覧会が巡回してくる拠点があります。さいたま市にはうらわ美術館がありますがグラフィックに特化した美術館で、優れたコレクションがありますが、ちょっと特殊な美術館です。さ

いたま市は政令指定都市で、人口が増加している、大宮も住みたい都市のランキングでは上位に上がってきている、それなのに、さいたま市に美術館がないという、それが私の意見としては不満で、今後あってもよいのではないかと考えているところです。

事務局 検討資料「2-2 他政令指定都市計画策定状況調査結果及び各市の予算額」を説明

委員 たとえば新潟市、北九州市、浜松市は拠点を持っています。新潟市はりゅーとびあ新潟市民芸術文化会館、北九州市は北九州芸術劇場、浜松も浜松版アーツカウンシルがあり、アクトシティ浜松というコンベンション施設では全国に先駆けて作られた施設があります。新潟市もそうですがアーツカウンシルが熱心に取り組んでいます。仙台市は仙台国際音楽コンクールもやられているし、せんだいメディアテークという立派な施設を持っています。市のレベルで拠点の施設を持っているところがやはりすごいと思いました。逆に大阪、川崎、横浜など古い政令市はもともと府や県の分担でやられているのかなと思います。今は施設の時代ではないのかもしれませんが、施設に伴い、いわゆるプロデュース面もしっかりされています。この関係の仕事を経験するまで、新潟市と芸術文化はぜんぜん結びつきませんでした。関わってみて、すごいなと思いました。中間支援という言葉が出てきていますが、そういうことも含めて、これらの都市の状況を調べることはさいたま市にとっても必要だと思います。

会長 さいたま市の予算額について、今後上がるという見通しはあるのでしょうか。具体的に何かあればお話いただけますか。

事務局 グラフで見ると右肩上がりになっていますが、平成 28 年度はさいたまトリエンナーレ 2016 をやった年で、その前年はプレイベントでお金を使っていますので、右肩上がりになっています。平成 29 年度はその前々年度ベースに予算削減されています。これから次のさいたま国際芸術祭に向けて始動しますので、またこれから右肩上がりになるという状況です。

会長 もっと予算をつけてくれという審議会からの要望を出すということにはできないのですか。

事務局 援護射撃をしていただけると非常にありがたいです。これを単純に見て、さいたま市の市民一人当たりの文化芸術費を 20 政令都市で比較しますと、下から数えたほうが早いわけです。それがよいか悪いかというのはいろいろありますが、18、19 位にとどまっていま

す。さいたま国際芸術祭やトリエンナーレをやった年だけ上がる、果たしてそれでよいのか。さいたま国際芸術祭やトリエンナーレは起爆剤だと思っておりまして、それを契機に文化芸術に触れたり、参加したりというのをもっと市民の方が活動できるような環境をつくっていくことが大切だと思っています。財政当局等にはプッシュはしているのですが、なかなか世知辛い今般の社会情勢ですので、結果には結びついていません。我々の思いとしては芸術祭が打ち上げ花火的にならないように、日頃の文化事業も十分予算を確保してやっていきたいという思いはあります。

委員

訊いてはいけないことなのかもしれませんが、文化的事業に予算をつけていただくということはぜったい必要だと思うのですが、さいたま市はスポーツにはお金をかけられるけれど、なぜ文化にはお金をかけられないのでしょうか、という話をよく聞きます。そういう何かあるのでしょうか。

事務局

そういう言葉をいただくことも確かに多いです。予算の金額から考えれば、確かにスポーツにかけている予算は大きいです。端的に比較すれば、芸術祭は3年に1回ということで進めておりまして、スポーツは大きなイベントを毎年行っていることもあります。単純に比較すると、スポーツに大きな予算をかけているということは確かです。ただ、本日触れているお話の中にもあるまちのイメージの選択肢として「スポーツの盛んなまち」もあります。文化と比較すると少し高めの数字が出ています。これは政令指定都市になる前から、特に浦和はサッカーが特に盛んなまちでしたし、今でもそうです。過去の歴史を見れば、さいたま市内の高校から優勝校が出ており全国的にも大変有名で、「静岡か埼玉か」と言われるような時代が長く続いた上での、伝統あるサッカーのまちということがあります。市民の皆さんもスポーツに対する思いは大きいし、スポーツが盛んであるということは確かなので、さいたま市政としてもスポーツに力を入れているということは確かです。一方、文化に力を入れているという訳ではないのです。スポーツの持っている状況と文化の持っている状況は違うので、単純に予算だけで比較することはできないと思っております。ただ、先ほど事務局からも申し上げたように、数字で見ますと確かに文化にかけているお金はどのかなというところはあって、それは感じているところなので、さいたま国際芸術祭だけお金を使えばよいとは決して思っておりません。さいたま国際芸術祭を続ける中で、普段の年度の予算をどうするか、これは大きな課題だと思っています。財政にも毎年のように申し上げていますが、全庁的な事業を考えると、文化やスポーツだけにと

っぷりとお金をかけられるような時代ではないこともあります。どうしても全体の中でさいたま市がどこにお金を使っていくかという議論の中で文化の予算が決まっていく事情があります。そういう事情もふまえながら、文化を推進していく私たちの立場として、もう少しかけてほしいということはこれからも引き続き訴えていきたいと思っています。審議会の皆さんの御意見もいただきながら、場合によっては同じように、歩調を合わせて、「文化にもっと力を入れていこう」という意見をいただきたいと思います。

#### 副会長

以前、江東区の劇場に勤めていまして、すぐ近くにF C東京の練習場がありました。当時は江東区に本拠地があり、東京ガスのチームでした。Jリーグのチームとは、基本的には総合的な地域スポーツクラブという位置になりますよね。必ずサッカー以外のことも取り組むのですが、劇場に勤めている身としては、ファンクラブのつくり方や地域の巻き込み方というのが非常に似ているので、これは連携したほうがよいと思って、何度か持ち掛けようとしたのですがなかなか手が足りず、結局できなかったんです。ジャストアイデアですが、浦和レッズといたらサポーターの熱心さは相当有名で、それはひとつのブランドだと思います。それだけ熱心な方がいるところに、たとえば浦和レッズのメニューの一つに、文化やアートのようなものが入ってくるという連携のかたちで裾野を広げていくことを考えてもよいのではないかと思います。というのも、まもなくオリンピックが開催されますが、オリンピックは皆さん御承知のとおりスポーツだけのイベントではなくて、スポーツと教育と文化の3つを一緒にやるフェスティバルです。スポーツだけの祭典ではないと考えると、スポーツの地域クラブがアートやカルチャーに関して、一つのセクションを持っていてもよいのではないかと思います。他にないような、浦和レッズと大宮アルディージャ、一つの地域にJリーグのチームが2つもあるのでうまく連携し、たとえば「浦和レッズの選手と一緒に童謡を歌いましょう」みたいなイベントがあってもいいかもしれません。

#### 委員

今の委員のお話を聞いて、なるほどと思ったのですけれども、そもそも文化って何だろうという定義の部分がありまして、サッカーをやることは確かにスポーツ、フィギュアスケートをやるのはスポーツ、だけどフィギュアスケートを観るのはスポーツだろうか、芸術だろうか、という曖昧なところをはっきりさせるのではなくて、浦和レッズの歌を歌うのは芸術、というかたちで、文化という意味合いを広げる、重ねていくというやり方があるのではないかと感じました。

会長                   ありがとうございます。議題がまだ②のところにとまってしまっているのですが、先を急ぎたいと思います。

### <議題③審議会の位置づけ及び計画策定の進め方>

事務局                検討資料「3 本会議の位置づけ及び計画策定の進め方」を説明

会長                   ありがとうございます。今の御説明に対して、御意見、御質問がありましたら御発言ください。なければ次の議題に移ります。

### <議題④次期計画の検討事項に>

事務局                検討資料「4 次期計画の検討事項」を説明

会長                   ありがとうございます。これは今検討するのですか。

事務局                事務局では一応こういうかたちで今後検討していただきたいということで挙げさせていただきましたので、御質問や、(1)から(5)まで挙げている項目以外にこういったことも検討した方がいいのではないかというような御意見があればいただきたいと思います。

会長                   わかりました。ではまず次期計画の中で「現行計画での7つの基本施策体系」、これについて追加で御意見ありますでしょうか。

事務局                今日初めて目にした方もいらっしゃるかと思いますので、今後行うアンケート調査の結果もふまえて委員の皆様の後日改めて御意見をお伺いできればと考えております。

会長                   そうすると、今年度の後半部分で審議するということですね。わかりました。

委員                   資料4(4)指標のところですが、先ほどの21個の選択肢が並列しているというよりは、重点的な施策にフォーカスして、ここだったら「文化・芸術のまち」というのを一つ挙げていただいて、そこでたとえば、とてもそう思う、まあそう思う、あまりそう思わない、まったくそう思わない、と4段階にして、まあそう思うと、とてもそう思う、を合わせると何%というふうにやると、かなりポジティブな結果にはなってくると思います。なぜかと言うと、先ほどから意識を高めたい、ポイントを上げたいと言いますが、予算が出ないので矛盾があると思います。それを、予算をつけていただくためにもこういう高い数値を出していくことは必要だと思います。そ

ここに、先ほどの文化度を計る指標を追加していただけるといいかなと思います。

会長                   そうすると今のお話は議題⑤のアンケートや調査の進め方に関係しますね。では、次に行きましょう。

### <議題⑤アンケート及び各種調査の進め方>

事務局                検討資料「5 アンケート実施計画案、各種調査実施計画案」を説明

会長                   ありがとうございます。今の説明に対して御質問等がありますか。

委員                   先ほど話がありましたように、アンケートをするとシニアの方がかり回答していただいて、そちら寄りになってしまうというのがあると思います。これを自宅郵送という方法だけでなく、たとえば学校、市内の小中学校、高校に配布をして協力をしてもらうなど、子どもたちの意見をしっかり集められる手段や、できれば、インスタグラム、フェイスブック、ツイッターなどに広報してみるとか、なるべく広い世代の意見が集る方法でやっていただけたらと思います。

委員                   アーツカウンシルに関する調査というのは、言葉は知っているのでもよく使ってしまうのですけれども、内容をよく知らないのでも、まず副会長に御指導いただけるのが一番良いのではないかと思います。それからできれば、予算の関係もあるのでしょうかけれども、そこに携わっている方の情熱とかそういうのも含めて、実際に聞いてくるということも、どこか近いところで、予算が採れたらどうかと思いました。

副会長                2つあります。委員のお話を聞いて思ったのですが、確かに若い子たちの声は集まりづらいので、だったらダイレクトに採りに行くという方法がよいと思います。私は以前、福島県いわき市の劇場に勤めていたのですけれども、立ち上げ時からマーケティングの担当をしていて、様々な調査をしたのですが、その中で一番ダイレクトに私たちにも響くし、効果があったと思ったのはグループインタビューです。調査費の予算の問題もあると思いますが、声を聞きたいと思う層の人たち5～6人のグループにダイレクトに声を聞いていく。普段は芸術とか文化の活動には来ないだろうなという人たちの声もあえて聞いていくとか、そういうことで自分たちがどれだけ社会の端っこでやっていたんだろう、みたいなことが明らかになっ



会長 貴重な御意見をありがとうございました。今日まだ御発言の無い委員いかがでしょうか。

委員 文化や芸術というと特殊な部分と思っていましたけれども、そうではなくて、すぐ目の前にあるものを誰もがどう感じるかという、豊かさというものを基本に考えていくのがよいのではないかと私自身は思っています。

会長 最後に御意見ありますか。  
では、以上で議事をすべて終了いたしましたので、議長の職を降ろさせていただきます。御協力ありがとうございました。

### ＜その他＞

事務局 事務連絡がございます。

- ・議事録について：事務局でまとめた上、案ができましたら皆様に確認をお願いします。
- ・次回の開催について：2020年1月下旬頃を予定。その前に2019年11月頃、事務局から委員の皆様に対し、書面等により次期計画の検討事項に関する御意見を伺いたいと考えております。日程が決定次第、皆様に御連絡します。
- ・会議の公開について：本日の会議結果は公開とし、会議録及び会議の開催結果を事務局にて作成し、各区の情報公開コーナーでの閲覧、また、さいたま市ホームページへの掲載が行われます。